

(様式第 11 号) (第 14 条関係)

令和元年度 「みんなの力でつくるまち」活動支援事業評価報告書

事業名	「愛宕山動植物図鑑」のエデュタメディア化事業
団体名 (連絡先)	NPO 法人愛宕山てっぺんの森を守る会
総事業費	502,080円 (うち補助金: 225,000円)

事業内容

Educational=まなび Entertainment=あそび Media=場 の3要素を融合したエデュタメディアを開発する。昨年度補助事業によって作成した「愛宕山動植物図鑑」を題材に、2本のシナリオを制作した。このシナリオは、以後に開催されるワークショップで、次のとおり利用されるものである。①参加者らがシナリオに即した絵を描いたり切り絵をつくったりし、素材をつくる ②素材をもとに、紙芝居を作成する ③自分たちで朗読し発表する <経過>①19/8、事業開始 ②19/9、開発目標と具体的開発プレスト「誰もが上演出来る紙芝居」をつくらうと決定(見るよりやったほうが理解が深まるから) ③19/10、プログラム開発開始、シナリオ完成 ④19/11、実証実験、語りの朗読音声収録(女優山ロルツコ) ⑤20/01、改善、ストーリーに矛盾が無いかな監修(青木淳一横浜国大名誉教授)。⑥20/2、実証実験、デモ映像の試作。⑦20/03、実用化。

事業効果

- リアリティの獲得
生物多様性保全の大切さを実感できる。
- 人に言いたくなる
まわりの人に言いたくなる仕組みができる。
- 社会的インパクト
生物多様性のライフスタイルが常識化する社会に向けてインパクトを与えることができる。
- 他の団体への価値提供
独創的で現代的な発信媒体が普及する余波を生む。

【目標・ねらい】

- 生物多様性が身近になる
- 人に言いたくなる
- 社会にインパクトを与える
- 独創的・現代的媒体の普及

自己評価(目標達成率) 【 A 】

今後の取り組み

開発されたワークショッププログラムを、定期的で開催する。これより、ひとつのシナリオから、十人十色の作品が無限に生まれていく。WSの過程や、そこで作られた作品は、Youtube や Facebook、Twitter などのソーシャルメディアを通じて公開する。森林保護及び、生物多様性の普及啓蒙に活用する。「エデュタメディア」思想を、社会運動化し、リアリティとインパクトを与える。持続的に活動するための財的基盤確立のため、寄付収入を安定的に確保するための仕組みを作る。



【フルHDノンリニア編集風景】

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。